

審査の結果の要旨

氏名 衛藤 真規

本論文は、保育者が保護者支援の基盤となる保護者との関係構築において、経験とともにどのように変容をしていくのかという観点から、保育者の専門性を明らかにすることを目的としている。そのために、新任や中堅、ベテラン保育者へのインタビューを行い、その語り分析と検討を行った研究である。論文は、全体で4部10章から構成されている。

第I部では、第1章において保育者の保護者との関係構築へ着目する意義を述べ、第2章では当該分野における研究動向を概括し、①経験に応じた保護者との関係構築の特有性や関与要因の検討の必要性、②保護者対応での困難対処過程での保育者の変容やそれが専門的成長に与える影響の解明の必要性、③保護者との関係構築における後輩育成研究の必要性という3課題を導出し、第3章では、研究の目的と課題、方法を整理している、

第II部第4章(研究1)では経験年数8年以上の経験長群8名と8年未満の短群8名の保護者との関係の捉え方の語りをM-GTAを用いて質的に分析し、短群が伝えたいことが伝わらない困難を感じるのに対し、長群では客観的思念が生まれ共感的に捉えられるという、群間差を明らかにしている。続く第5章(研究2)では、新任1年目保育者2名に1年間3回のインタビューを継続実施し、1年目内の変化を見出し、担当年齢により難しさの表出に違いがあることも示している、第6章(研究3)では、中堅7名の保育者の語りから困難感の内容として3カテゴリー16概念を明らかにし、子どもの利益と保護者の利益等相反する矛盾に直面し葛藤しながらの対応を通して成長を実感する姿を描出している。

第III部では、個人の変容過程について、第7章(研究4)では11年以上のベテラン保育者5名より、自身の関係構築の変容過程を聴きとり、保護者の抱える課題を共に解決する直接的関わりと、保育を充実させ保護者に安心してもらう関わりの2方法が生まれていくことをTEMを用いて明らかにしている。続く第8章(研究5)では、保育者の価値観変容を、8名の保育者の聴き取りをSCATとTLMGの方法を用いて分析し、変容における保育者間の多様性を明らかにしている。続く第3部第9章(研究6)では、保護者との関係構築に関する後輩育成に関し7名に聴き取りを実施し、外的内的困難要因を明らかにしている。

そして第4部第10章では、上記6研究を概括し、保護者との関係構築に関する保育者の専門的成長のモデル化を行い、今後の課題と展望を考察しまとめている。

本論文は、保護者との関係構築に焦点を当てて、丁寧な聴き取りを行い、その語りについての質的分析研究の方法によって、保育者の専門的成長の過程を精緻に示し、その事例から専門性やそこでの困難を明らかにした点で独自性が高い研究である。取り上げられた数々の事例は、保育者の専門的見識を示し、社会的にも意義の大きな研究である。よって、本論文は、博士(教育学)の学位を授与するに十分にふさわしい水準にあると判断された。